



【本教材のガイダンスと到達目標】

- **対象者：** 神奈川県公立高校入試を受験する中学 3 年生（および指導者・保護者）
- **特に向いている生徒：**
 - 雨温図を見ると、都市名や降水量の数字ばかり追ってしまい、どれを選べばよいか迷う生徒
 - 南半球の気温カーブの逆転（7 月が冬）に気づかず、北半球と同じ感覚で解いて失点する生徒
 - 「アンデス高地の気温の低さ」や「北大西洋海流と偏西風」など、気候の成因や生活文化と結びついた問題で手が止まる生徒
- **このプリントでできるようになること：**
 1. 提示された雨温図の「7 月の気温（山か谷か）」に着目し、北半球・南半球を瞬時に正しく識別できるようになる。
 2. 2016 年型の「4 地点雨温図識別」において、極小降水（砂漠）、年中多雨（熱帯雨林）、夏季乾燥（地中海性）、気温反転（南半球）の判定フローを用いて確実に仕分けられるようになる。
 3. 低緯度高地（アンデス山脈）特有の「冷涼で年較差が小さい」雨温図を見抜き、石・日干しレンガ住居やアルパカの飼育と論理的に結びつけられるようになる。
 4. 「地中海性気候の夏季乾燥 → オリーブ」「西欧の温暖性 → 北大西洋海流（暖流）＋偏西風」「日本の夏 → 南東の季節風」という成因・農業・風向の因果・対応関係を客観的に照合できるようになる。
- **推奨する使い方：**
 - **Step 1（理論の整理）：** 第 1 章～第 5 章を読み、雨温図の客観的な読解手順と自然環境の成因ルールを頭に入れる。
 - **Step 2（自力演習）：** 第 6 章の実戦定着ドリル（全 10 問）を、雨温図の気温曲線・降水量を分析しながら解く。
 - **Step 3（誤答分析）：** 解答解説の「失点パターン分析」を精読し、自分がどの判定段階で間違えたかを検証する。
 - **Step 4（過去問演習）：** 末尾の「過去問演習優先度表」に従い、自然環境・雨温図が出題された年度を演習する。

【冒頭 1 分要約：自然環境・気候問題の真実】

【結論】 神奈川県の世界地理で、気候は「都市名の丸暗記」では解けない。

「半球 → 気温水準・年較差 → 降水配分 → 成因・生活文化」という 4 段階の客観的手順で処理せよ。

① 雨温図を見たら、まず「7月の気温」にペンを当てろ

- ・7月前後に山（凸型）—————> 北半球
 - ・7月前後に谷（凹型／1月に山）—————> 南半球（ブエノスアイレス等）
- ⇒ 都市名を思い出す前に、まず半球で候補を絞り込め。

② 低緯度なのに冷涼なら「アンデス高地」をマークせよ

- ・アンデス高地の雨温図は 2018・2022 年に確認。
- ・低緯度にありながら、標高の影響で年間を通じて冷涼、年較差が小さい。
- ・2018 年ではさらに「石・日干しレンガ住居」「アルパカの飼育」と生活文化まで結びつけて判定する。

③ 「気候・植生」と「成因・生活・農業」を因果の矢印で直結せよ

- ・西欧が温暖な成因：北大西洋海流（暖流） + 偏西風（2025 年）
- ・地中海性気候： 夏季乾燥 —————> オリーブ栽培（2026 年）
- ・冷帯（タイガ）： 針葉樹林の木材 —————> 丸太住居（2012 年）
- ・日本の夏の季節風： 南東の風（2024 年）

第 1 章：神奈川県は 15 年中 12 年度で「自然環境」を出題している

1. 12/15 年度（80%）の高頻度出題

神奈川県公立高校入試の世界地理（問 1）において、気候区分、雨温図、植生、地形、地球環境問題などの自然環境に関する設問は、**2012 年度から 2026 年度までの 15 年間で 12 年度で確認されている**（2012～2019、2022、2024～2026 年度。※2020・2021・2023 年度は直接の出題なし）。

2. 雨温図は 7/15 年度、とりわけ「2014～2019 年に 6 年連続」で出題

雨温図を用いたグラフ判定は、15 年間で 7 年度（約 47%）で出題されている。とりわけ **2014 年度から 2019 年度にかけては 6 年連続で雨温図が出題**されており、その後も 2022 年度にアンデス高地の雨温図が登場した。

近年の 2024～2026 年度では、雨温図グラフそのものを用いない形式（季節風の向き、暖流と偏西風による気候成因、農業・環境問題との結合）でも自然環境の理解が一貫して問われており、形式の変化に対応できる判定手順を確立しておく必要がある。

第 2 章：雨温図を迷わず解く「3 ステップ判定法」

雨温図を見せられたとき、降水量の棒グラフから見始めてはならない。必ず以下の 3 ステップに従って判定する。

【ステップ 1：7 月の気温折れ線グラフで「半球」を決定する】

- ・7月前後に気温が最も高い（山型・凸型）—————> 北半球
- ・7月前後に気温が最も低い（谷型・凹型）—————> 南半球（オーストラリア、南米南部など）

【ステップ 2：気温水準と「年較差」で気候帯を絞り込む】

- ・低緯度に位置する地点で年較差が小さい場合：